

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人静岡福祉会
施設名	小規模みつばち保育園
報告者（役職）	島津不二子（園長）
住所・連絡先	静岡市葵区北安東5丁目20-2
	☎ 054-246-3011
	E-mail simazu@mitubachikko.com

○タイトル（保育計画）

“生きる力”を育てるあそび、生活を大切に！

○主な助成備品

ぱっと組替えジム、軽量マット、甲賀忠吾の丘、ままごとパーテーション、ままごと乳児用レンジつき流し台、ままごとテーブル、パネル、パーテーション複数 等

1. 保育計画策定の目的

自宅近隣の保育園に入れず、「やっとたどり着いた小規模保育園」という家庭ばかりです。自宅や職場から離れていて毎日の送迎が大変、遅い夕食を食べ、夜型の生活リズムになっている子、父親の帰りが遅く父母がゆったりとこども達に関われない等、こどもたちの生活と育ちが困難になってきています。こども達が生活と発達の主人公となり、日々の暮らしを楽しみ、仲間と関わりながら生きる喜びを実感でき、“生きる力”を育てるあそびと生活を作り出していくことが保育園の課題でした。

① 「生活がこどもを育てる」

毎日の生活は乳児期のこどもにとってとても大切です。こどもにわかりやすく、落ち着いた雰囲気の中で安心して生活できるように、食事、睡眠、あそびのコーナーを分けて生活することが出来る環境を作りたいと思いました。

② 生きる力を育てる「あそび」

「明日もまた〇〇であそびたい」という“たっぷりあそぶ”ことが、生活リズムのサイクルを快いものにしていきます。保育園の周りは乳児が歩いてあそぶ安全な場所がないため、近くの公園に行って遊んでいます。この地域は平坦な住宅地なので山道、坂道、砂利道などがなく、公園までの道のりは探索や探検の楽しみが少なく、たっぷりあそぶことがなかなか出来ません。毎日たっぷり遊べる環境を保育園の中に作りたいと思いました。

2. 具体的な実施内容

① 安心して生活できるように、食事、睡眠、あそびのコーナーを作る

(パネル、パーテーションを使って、部屋を区切る。)

【0歳児室】

室内の中に食事コーナーをすることで、もうひとつの空間をあそびと睡眠コーナーに分け、たっぷりぐっすり眠れる睡眠（午前寝、夕方寝）の保障をします。

【1歳児室】

食事コーナーとあそびコーナーを分け、こどもにわかりやすい落ち着いた生活環境を整えます。「食べ終わったら着替えてあそびコーナーで遊ぶ」という次の行動がわかりやすくなり、「ジブンデズボンヲハキタイ」という意欲にもつながります。

② こどもの身体の発達保障をするために躯幹（足、体、手指）を使った遊びを充実させる

【0歳児】

・ハイハイを十分保障できる遊具（ハイハイで登れる太鼓橋のような運動遊具…「甲賀忠吾の丘」をいつでもやりたい時に出来るように、室内に常設します。

【1，2歳児】

・毎日繰り返してあそぶことが出来るように、室内に常設の運動用具（滑り台とジャングルジムの機能を持つ…「ぱっと組替えジム」）を常設し、はしごや階段を昇り降りする力、ジャングルジムをくぐる力、平衡感覚、体をコントロールする力を養います。

③ みたて、つもり遊びからごっこ遊びへ

・1歳児からみたてあそびが多く展開され、つもりになってあそぶようになります。2歳児後半からは共通のイメージを持ってごっこあそびが展開していけるように環境を整えます。

☆ままごととパーテーション…空間を仕切り、お家、病院、レストラン等を作る。

☆ままごととテーブル、レンジ付き流し台…お母さんのつもりになって食事を作るなどの共通のイメージで遊ぶ。

3. その成果と評価

① 安心して生活できるように、食事、睡眠、あそびのコーナーを作る。

【0歳児室】



《写真：食事コーナーで給食を食べているところ》

離乳食のこどもが食べている時に、月齢の大きいこどもが自分も食べたくってテーブルの周りに来て手を出したり泣いたりすることがなくなり、サークルの外で自分の好きな玩具であそぶようになりました。又、食事もしずかしく食べられるようになりました。

《写真：月齢別のあそびの保障》

サークルの中で月齢の大きい子がパズルであそび、サークルの外で月齢の小さい子が王様の宝物であそんでいるところです。サークルがあることで、お互いのあそびが邪魔をされて喧嘩になることが少なくなり、安心して好きな玩具であそぶことができるようになりました。



【1，2歳児】



《写真：2歳児が折り紙を折っているところ》

サークルの中が食事コーナーです。食事コーナーがあることで、「今は食事の時間」ということがわかりやすく、食事の途中で玩具が気になって席を立つことがなくなりました。食事を友だちや保育者と楽しんで食べることができるようになりました。

こども達は食べ終わったら「今度は服を着替える」ということが、保育者の言葉だけでなく視覚的にもわかりやすくなり、毎日繰り返すことで自分から服を着替え、あそびコーナーであそぶという見通しが持てるようになりました。保育者も「そっちにいったらダメ」という否定の言葉かけが少なくなり、落ち着いた雰囲気の中で生活が出来るようになりました。

サークルの中は食事だけでなく、上記の写真のように年齢別の活動を保障する場にもなっています。又、サークルの中は静かな手指を使ったあそび、サークルの外は巧技台の滑り台等のあそびと、「静」と「動」をわけてあそんでいます。こども達はサークルがあることで、「ここは静かにあそぶ場所」ということがわかるようになり、自分はどちらで遊ぶのか場所を選ぶようになりました。又、安全面も向上しました。

②こどもの身体の発達保障のために躯幹（足、体、手指）を使った遊びを充実させる。

【0歳児】



《写真：丘にのぼろうかな？どうしようかな？》

いつも途中であきらめてしまうH君。月齢の大きいこども達が登っているのを見て、「ボクダッテ」という思いが育っていたのか、この日、丘の上まで登ることが出来ました。いつでもやりたい時に出来るのが常設の良さです。いつも部屋に置いていたことが思いを育てていたようです。

《写真：甲賀忠吾の丘…ハイハイで登れます》



【1，2歳児】



《写真：ぱっと組替えジム》

滑り台、はしご等を組替え、いろんなバリエーションであそぶことが出来ます。いつもは部屋の隅に常設しています。置いたばかりの頃は、2歳児も慎重に登っていましたが、1年経った今では0歳児のこども達が大きい子の真似をして滑り台に登るようになりました。

《写真：1，2歳児のこども達…いろんなバリエーションで遊んでいます。》



時々、部屋の真ん中に出していろんな組み合わせを楽しんでいます。上からジャンプして飛び降りたり、いろんなところから登ったりしています。

③みたて、つもり遊びからごっこ遊びへ

【1，2歳児】

《写真：お家ごっこ》

木製のパーテーションで空間を仕切ることによりこども達があそびに集中し、そのつもりになりイメージを共有してあそんでいます。2歳児の女の子がお母さんで、1歳児の男の子がこどもになりご飯を食べて遊んでいる場面です。同年齢だけでなく異年齢でも良くあそびます。レンジ台でお茶碗を洗い、ご飯を作っています。本物に近い玩具があることが、ごっこあそびを豊かに展開しています。



4. 今後の課題と展望

① 安心して生活できるように、食事、睡眠、あそびのコーナーを作る

【0歳児室】サークルで室内を区切ることによって食事とあそびコーナーを分ける事が出来、落ち着いた環境の中で生活することが出来ました。睡眠コーナーは、室内のスペースがなく作ることが出来ませんでした。午前寝の保障が出来るように今後工夫していくことが課題です。

【1，2歳児室】食事コーナーの中に、こどもの着替えが置いてあるロッカーがあり、食事→口拭き→服を脱ぐ→服を汚れもの袋に入れる→服をロッカーから出して着るという一連の動作が食事のこどもがいるため、スムーズに出来ないのが課題です。出入り口の場所を変更したいのですが、壁に釘でサークルを打ち付けてしまったため変更できず少し不便を感じています。今後の課題はありますが、サークルで室内を区切ることでもうひとつの空間が生まれ、食事コーナーとしてだけでなく、あそび、製作コーナーなど、今後いろいろな工夫して活用していきます。

② こどもの身体の発達保障のために躯幹（足、体、手指）を使った遊びを充実させる

0歳児室、1，2歳児室とも常設して室内に置くことで、友達や月齢の大きい子がやるのをみて「ジブンモ」という気持ちを育て挑戦していく姿がありました。丘・組み替えジムがコンパクトで、小規模保育園にはちょうど良いサイズでした。今後はいろんな組み合わせを考えて、もっと楽しめるようにしていきたいと思います。

③ みたて、つもり遊びからごっこ遊びへ

レンジ付き流し台、木のテーブル、木製パーテーションだけでなく、袋、エプロン、大きな布、牛乳パックのバイク、大きな箱等を用意しました。今後もこどもの要求にあった、みたて・つもりあそびが発展していくような玩具（手作り等も）を用意していきたいです。

以上